

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゆうあいホーム はな畑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐世保市大湊町1523-1
記入者名 (管理者)	中釜 隆夫
記入日	平成20年11月27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>はな畑の理念は、“もっとやさしく、もっと温かく”を掲げている。今後も利用者や職員と共に理念を伝えていきたい。</p> <p>○</p>	<p>地域行事等にも参加することにより、活動範囲を広げたい。地域の方に理解していただけるよう取り組みを行いたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>”もっとやさしく、もっと温かく”の理念を実践するように、ホーム会議等にて話し合いを行い、職員全員で取り組みを行っている。</p> <p>○</p>	<p>理念の実践が行えるよう、もっと活かしあえる機会を増やしていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には理解されていると思うが、地域の方々には、挨拶回りやパンフレットの配布活動しかできていない。</p> <p>○</p>	<p>地域の方々に理解してもらえよう、新聞等の配布の拡大や当事業所の行事等の参加を呼びかけを行ってきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者と近隣の公園の散歩時、地域の行事等の参加時に、ホームに気軽に立ち寄ってもらえるよう声をかけて行っている。</p> <p>○</p>	<p>今後も近隣の方々への声かけを継続し、付き合いを深めていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎月行われている消防団の活動、夏祭り、地区清掃、老人会等に参加し交流に努めている。</p> <p>○</p>	<p>子供安全パトロール等の地域活動を継続し、他の地域行事にも積極的に参加をしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の自治会の役員の方々に、何か協力できることがあればと話をしているが、まだ現実はしていない。	○	実現に向けて、努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価について会議等で実施内容や実施できていない内容について、話し合いをもっている。	○	今後は、評価を活かして、改善に向けて取り組みを行いたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時の意見等を前向きに検討し、実践に取り組んでいる。	○	今後も運営推進会議にて出された意見について、前向きに取り組むを行いたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会等には、積極的に参加している。	○	市主催の講習会等にて、市の担当者の方々と交流を計っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用したことはない。	○	勉強会に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣や入浴時などに身体チェックを行い、見過ごさないように心がけている。		全職員が、全ての利用者の声や様子の変化に注意をして見過ごさないように、今後も取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や家族面会の際に説明の機会を設けている。	今後も継続していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等が出た場合は、早急に職員間で話し合いを持っているが、外部者へ話せる機会は少ない。	○ 佐世保市グループホーム協議会等主催の研修会に参加し、外部へ話せる機会をつくり、職員のレベルアップを計りたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話にて、現状報告等行っている。	○ 職員の異動に関しては、少しでも早めの報告が出来るように努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族の集まる機会を設けたり、意見箱の設置を行っている。苦情等があった場合は、直ちに対処をしている。	家族面会時にコミュニケーションを計りながら、今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者とは、六ヶ月に一回の面談にて話す機会を設け、管理者とは、月一回のホーム会議時に意見を聞く機会を設けている。	今後も継続していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の協力、話し合いにて調整ができています。	今後も継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者様の不安を少しでも和らげる為に、声かけによる心配りを行っている。	○ 異動は、最小限にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人にて研修委員会を設けており、法人内外で定期的に研修が行われており、参加している。	○ もっと様々な研修会に参加できるように調整していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	運営者が佐世保市グループホーム協議会の会長でもあり、グループホーム協議会を通じて、勉強会の参加やネットワーク作りを行っている。	○ 今後も交流を深めて、ネットワーク作りを強化していきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	勤務体制の改善や職員研修旅行を現在実施しており、定期的に職員の交流会を行っている。	○ 今後も継続していく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	各職員の状況を把握しており、給料や役職の昇給などに対応している。	○ 今後は、役職別の研修を行うなど、職員の向上心が高まるように努めたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所前に事前の面談などを行い、話を聞いている。	○ 今後もコミュニケーションを計り、要望に応えられるよう努力していく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族面会時に、必ず話をする機会を設けている。	○ 今後も継続していく。

ゆうあいホームはな畑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様から相談を受けたときには、早急に対応、また家族との話し合いの機会を増やし、相談の解決に努めている。		今後も利用者と家族とのコミュニケーションを計っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度か見学をしてもらい、サービスに対して納得してもらうように努めている。		今後も見学や体験などをしてもらい、利用者と家族とのコミュニケーションを計り、工夫に努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、昔からの風習や料理や手芸等について学ばせてもらっている。		今後も継続していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族の集まる行事を設けたり、家族面会時にて家族様との交流を計り、一緒に考えて支える努力をしている。		今後も利用者と家族と共に考え、支えていく努力を継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会時に、家族様と会話を持つことで利用者様と家族様の関係を理解し、お互いが良い関係でいられるように支援している。		今後も利用者と家族と共に考え、支えていく努力を継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に利用者様と友人の馴染みのお店での会食の外出支援を行っている。		家族様や利用者様の友人との協力を密にし、関係が途切れないように努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者同士の仲を取り持ち、孤立しないように日々努力をしている。		今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、病院に入院されている場合は、お見舞い等により、利用者様や家族様との関わりを続けている。		今後も継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ利用者様の希望や思いを聞き、なるべくそっていき努力をしている。		今後も家族の意向に沿うよう努力をしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様と直接話したり、家族面会時に家族様と話す機会を設け、昔から通っている美容院への外出支援も行っている。	○	本人様、家族様、知人の方々からもっと情報収集を引き続きしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会話内容や様子観察を本人様のケース記録や業務日誌に記入し、また職員同士の申し送りにより、把握している。		今後も継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、家族様、主治医、介護支援専門員、職員スタッフ間での話し合いをもとに作成している。	○	今後ももっと話し合う機会を作り、利用者に即した介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行っている。		今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より細かい事でも個人のケース記録に記入するように心掛けており、ケアプランの検討に活かしている。		今後も継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の外出希望の要望にはできる限りの対応は行っている。また家族様の緊急の要望にて、家族対応の外出や受診を職員が変わって対応をしたりもしている。		今後も多機能性を活かした対応ができるように努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の見学や地域のボランティアの方が大正琴の演奏に来られたり、地域の消防署の方と交じって消防訓練を行っている。	○	今後も民生委員、ボランティア、教育機関、消防団等の交流に向けて努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人との交流との交流は行えている。他の法人との交流は十分ではない。	○	グループホーム協議会を通じ、他の事業所との交流を計っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、そのようなケースがない。	○	問題が発生した場合、検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、本人様、家族様の希望があれば、入所前のかかりつけ医との関係を大切にしている。		今後も継続していく。

ゆうあいホームはな畑

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医療機関にホームの協力医療機関に登録をしてもらい、必要に応じて気軽に相談できる関係を築いている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医療機関、訪問看護、同法人の看護職員と電話等で気軽に相談できる関係を築いている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入所時の面会で、医師や看護職員と少しでも話を聞く機会を設けてもらえるように心掛けている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人様、家族様、主治医等と共に、方針を共有している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけの医療機関との連携を重点において取り組んでいる。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の居所に移る場合、相手様が希望する情報提供に協力を行う。</p>	○	<p>法人の理念である”もっとやさしく、もっと温かく”を念頭において利用者様への気配りや心配りに対応していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての声かけ、対応には常時注意を払っている。個人のケース記録は、利用者には、わからないようになってる。	○利用者尊厳の意識をもって対応を行う。個人情報の大切さも共に意識をもっていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できるだけ利用者様の一人一人と会話を持ち、利用者の気持ちやわかるように心がけて対応している。	○どのようにすれば、すべての利用者ともっとゆっくりとした会話時間をもてるのか、利用者のニーズに応えられるかを今後職員で考えていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診や入浴や外出やについては、本人の希望通り実行している。しかしその日をどのように過ごしたいかまでは行えていない。	○利用者様の一日一日を大切に、その日の過ごし方について今後支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様の今までの行きつけの美容院に外出支援したり、場所は指定されないが美容院への外出希望の場合は、希望に沿って実行している。外出困難な場合は、ご家族の許可をいただいてホームにて散髪をしている。	○今後も継続していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事作りについては外部からの業者が入っている為に行っていない。しかし、料理のつぎわけや配膳、下膳は行っている。	○今後も利用者様の力を最大限に活かせるように継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時は、飲み物に関しては、本人の好みを聞いているが、おやつ自体は全利用者は、みんな同じになっている。	○おやつに関して本人の好みに合わせていくように今後支援していきたい。同時に利用者様一人ひとりの病状なども考慮し、検討していきたい。

ゆうあいホームはな畑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日勤帯は、トイレ誘導をこまめに行い、おむつをできるだけ使用せずに布パンツの使用に心がけている。	○	トイレで排泄することを意識してもらい、尿意を伝えてもらえるように支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、本人の希望を聞いている。現在、入浴時間は午後になっているが、希望により他の時間でも入浴できるようになっている。	○	今後も本人の希望にできる限り合わせていくように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入床時間は、本人の自由に任せている。空調管理は、職員管理がし、気持ちよく眠れるように支援している。		今後も継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションをはじめ、庭の草木への水まきやドライブや買い物などで気晴らしを行っている。	○	利用者一人一人と話し合い、その人に合う役割を見つけて、それが楽しみになるように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族との話し合いにて、少額のお金を所持してもらっている。	○	今後も継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的又は希望者への散歩、ドライブ、買い物、外食等を行っている。全ての利用者へのその日の希望にそった支援は不十分である。	○	利用者一人一人の楽しみを見つけ、全ての利用者のその日の希望にそえるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や結婚式等に家族との外出は行われている。しかし全ての利用者までは至っていない。	○	全ての利用者が、行きたい場所へ行けるように今後支援していきたい。

ゆうあいホームはな畑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自由に使用してもらっている。	○	レクリエーションで絵手紙を作成し、家族や知人に郵送するなどの支援を今後行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでも気軽に訪問できるようにしており、居室にて家族とおやつや食事をしてもらったりもしている。	○	現在のホームの雰囲気継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての勉強会を定期的に行っている。	○	拘束は、できる限り減らしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門が道路に面しており、利用者がもし一人で出てしまうと危険性がある為に、家族や本人様からの同意のもとで施錠を行っている。	○	現在は、利用者の身の安全が第一の為に施錠を行っているが、今後は、施錠について家族や職員と検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけや定期的な訪室を行いながら、様子を見守っている。	○	今後も継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人様や家族様と話し合い、必要性に応じて、ホームで預らせてもらっている。	○	今後も利用者様の状況に応じて、保管方法について検討していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム会議や定期的な話し合いを行い、ケアを行う上で、危険な事や注意する事を話し合い、事故防止に取り組んでいる。	○	今後も継続していく。

ゆうあいホームはな畑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、内部研修会を行い、応急手当や初期対応の訓練をうけている。	○	今後も、積極的に勉強会に参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力により、合同消防訓練を行い、避難方法を身につけている。	○	今後は、近所の方にもしてもらえるような働きかけを行っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態を見ながら家族に説明を行っている。利用者にとって、過ごしやすい環境作りを心がけている。	○	今後も家族との密な話し合いは、継続していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者様の状況把握の為に一日三回のバイタルチェックを行っている。特変事は、すぐに職員間で申し送りを行い、病院や家族への連携を速やかに行っている。	○	今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を個人のケース記録に綴じており、変更時は、職員間の申し送りの徹底と申し送りノートの活用を行っている。	○	今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中、夜間、食事時、おやつ時、職員が水分補給を十分に心がけて支援している。	○	今後は、軽体操や運動を多めに取り入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立されている方には、毎食後声かけを行い、口腔ケアを促している。介助が必要な方は、毎食後職員が口腔ケアを行っている。夜間は、義歯を預かり洗浄を行っている。	○	今後も継続していく。

ゆうあいホームはな畑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し、食事量や水分量を記録している。	○	今後も継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定期的にMRSA検査、大腸菌検査、インフルエンザ摂取を行っている。	○	今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具には、使用前後に消毒と乾燥を徹底している。台所に入る前は、手消毒を心がけている。	○	今後も衛生管理、食材の管理を徹底していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	裏庭へ四季の草木を植えて、明るい雰囲気を作っている。	○	今後ももっと花を増やし、明るく訪れやすい雰囲気作りに努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々にあわせて、フローアや玄関の飾り付けを行っている。	○	今後も利用者様が四季の変化を理解できるような環境作りに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアやリビングは、利用者同士で過ごしやすいように、ソファやテーブルの位置等を工夫している。	○	今後も利用者の意見や状態にあわせて、必要に応じて工夫を検討していきたい。

ゆうあいホームはな畑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の愛着のあるタンスや仏壇を持参してもらい、写真等も飾ってもらっている。	○	今後も利用者様の落ち着ける環境作りに本人と家族様と相談しながら努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度管理や空調管理は、職員が全て行っている。	○	今後も利用者様の体調等に注意を払いながら、温度管理を行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーになっている。エレベーターも職員が必ず付き添うが、自由に使用してもらっている。	○	今後も利用者の状態にあわせて、手すり等の取り付けなど工夫を検討していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事の配膳や洗濯物干しや取り込みや洗濯物たたみ等、職員と一緒にしている。	○	今後も利用者のできることは、職員と一緒にしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭の畑にて、畑仕事をして花や食物と作り、散歩をしたりと自由に楽しまれている。	○	今後も継続していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ゆうあいホームはな畑

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)